

2. 論文の構成

修士論文は、次の要件を満たす構成とする。

- (1) 看護学や看護実践の発展に貢献する内容を有する。
- (2) 先行研究が十分に検討され、研究背景が系統的に示されている。
- (3) 研究目的の設定や研究方法が適切である。
- (4) データ・資料などを的確に収集し、妥当な分析を行っている。
- (5) 新しい知見の提示や独創的な提案等を行っている。
- (6) 文章表現が適当であり、首尾一貫した論理展開になっている。
- (7) 研究の全プロセスにおける倫理的配慮が適切になされている。

3 論文の評価内容

修士論文の内容は、次のような点において評価する。

- 1) 看護学や看護実践の発展に貢献する内容を有する。
- 2) 先行研究が十分に検討され、研究背景が系統的に示されている。
- 3) 研究目的の設定や研究方法が適切である。
- 4) データ・資料などを的確に収集し、妥当な分析を行っている。
- 5) 新しい知見の提示や独創的な提案等を行っている。
- 6) 文章表現が適当であり、首尾一貫した論理展開になっている。
- 7) 研究の全プロセスにおける倫理的配慮が適切になされている。

5. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、がん看護 CNS コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNS コース、助産学コースの9コースで構成されている。

6. 履修方法

次頁の履修モデルおよび、教育課程表（1）～（4）を必ず確認し、修了に必要な単位を把握し
たうえで、研究指導教員のもと履修登録を行うこと。

教育課程表（1）：看護援助学コース
看護管理学コース
地域・在宅看護学コース
母子看護学コース
がん・成人看護学コース
高齢者看護学コース

教育課程表（2）：がん看護 CNS コース

教育課程表（3）：老人看護 CNS コース

教育課程表（4）：助産学コース